

## 「主体的・対話的で深い学びの視点を取り入れた授業の実践」 ～新学習指導要領に対応できる教師の育成を目指して～

Practicing a class from the perspective of proactive, interactive, and deep learning: with the aim of training teachers who adapt to the new course of study

浅見和寿（人文学部共通領域部）  
Kazutoshi ASAMI (Department of General Studies)

### 1 はじめに

「学習指導要領」が改訂される。これは今までも実施されてきたことであり、約10年に一度行われているもので、特段珍しいことではない。しかし、今回の改定では「戦後最大の改革」とまで言われ、それに関する書籍は店頭に並び、メディアも大きくとりあげている。その理由はいったいどこにあるのか。

そもそも「学習指導要領」とは、何なのか。「学習指導要領」とは、全国どこの学校でも一定の水準が保てるよう、文部科学省が定めている教育課程（カリキュラム）の基準である。生徒たちの教科書や時間割は、これを基に作られている。そのため、社会のグローバル化や急速な情報化、技術革新など、社会の変化を見据えて、生徒たちがこれから生きていくために必要な資質や能力について見直し、改訂を行っているのである。

今までの「学習指導要領」は、指導する内容についての記載がほとんどであったが、新学習指導要領では、その指導方法についても言及がある。この点が「戦後最大の教育改革」と言われる所以であろう。どのような内容を学ぶかだけでなく、どのような方法で学び、何ができるようになるのかが求められているのだ。

上記のような状況を鑑みて、現在教員を目指している学生たちが、新学習指導要領に沿って授業できるよう「教育方法論」の講義内容を精選した。実際に中学校や高校で実施している授業を数多く紹介し、口頭や活字で説明するだけでなく、学生自身が実際に体験しながら学んでいくというスタイルを導入した。このスタイルを用いることで、学生自身の中に「授業を受けた経験がある」という自信が芽生えたと考えたからである。そのため今年度の「教育方法論」の講義では、新学習指導要領に盛り込まれた「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践を数多く実施した。本稿では、その実践を報告する。

### 2 主体的・対話的で深い学び

「主体的・対話的で深い学び」とはどういうものか。文科省の資料<sup>(注1)</sup>によると、以下のようにある。

主体的：学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

対話的：子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

深い学び：習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

上記の要素を含めた教育活動・教育方法を実施していかなければならないということだ。つまり、それが現在教育現場で言われている「アクティブ・ラーニング型授業」ということになるだろう。しかし、具体的な活動例は示されていないので、私たち教員がその活動を模索していく必要がある。その部分を、今年度本学で実施したアクティブ・ラーニング型授業を紹介しながら、考察していく。

### 3 新学習指導要領に沿った授業

#### (1) 似顔絵付プロフィール作成

「教育方法論」の講義の中で、教育方法論史の学習を行う際、教科書を使用した講義式の授業を一通り実施した。その後、学生に講義で学んだ教育者を一人選んでもらい、その教育者の紹介をしてもらった。紹介する人物・内容は以下のとおりである。

人物：ペスタロッチ ヘルバルト デューイ等


紹介内容：①氏名 ②あだ名 ③出身地 ④生年月日 ⑤学歴・職歴 ⑥業績 ⑦著書

上記の内容について、生徒はインターネットや図書館を利用して調べていた。この授業のポイントは、ただ一問一答のような暗記を中心としたものではなく、その人自身に親しみを持ち、身近に感じることである。あだ名を自分でつけ、似顔絵も書き、その教育者のことを紹介することで、その教育者について深く学ぶことができる。また、内容が不十分であれば紹介することはできないことから、何冊もの本から様々な情報を得なければならない。この活動を通じて、学ぶことに興味が湧き、将来の教育者となる自分と関連付けながら取り組んでいたと感じている。

また、この教育方法は楽しさや懐かしさというものも内在している。私自身も経験があるが、学生たちが小学生だった時も友達のプロフィールを収集することが多かったようだ。その情報も得ていたので、プロフィールプリントは少しポップなレイアウトを意識して作成した。学生たちが「懐かしい」といって作業していたのが印象的である。「好きこそもの上手なれ」という言葉があるが、その学習に楽しさを見つけ、好きになることができれば、学生たちは皆主体的に学びを進めていくと考えている。

デューイ のプロフィール

作成者 [ ]



**氏名** ジョン デューイ

**あだ名** アボウズ

**出身地** アメリカ合衆国 バルチモア

**生年月日** 1859年10月20日  
(1882年10月10日) 26歳

**【職歴 (学歴)】 どんな学校行って、どんな仕事したの?**  
 学歴 18歳 ケンブリッジ大学 19歳 同大学  
 職歴 19歳 ケンブリッジ大学 24歳 ケンブリッジ大学  
 29歳 コロンビア大学 34歳 コロンビア大学

**【業績 (教育分野)】 どんな功績残したの?**  
 1. 教育の中心を子どもから「社会」の側面へシフトさせた。  
 2. 学校を「社会」の縮小版として、社会生活の場として捉え直した。  
 3. 教育は生活そのものであるという考えを提唱した。

**【著書】 どんな本書いたの? 内容も教えて?**  
 『民主主義と教育』 1916年刊行。教育の目的は個人の自由と社会の進歩の両方にあると主張し、道徳教育の重要性を説いた。『人間性』 1922年刊行。『人間性』 1922年刊行。『人間性』 1922年刊行。


**【参考図書等】 どこから情報手に入れたの?**  
 『民主主義と教育』 1916年刊行。『人間性』 1922年刊行。

**【誰が先輩?後輩?】 年上順に並び替えてみよう!**

ソクラテス、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ

ペスタロッチ のプロフィール

作成者 [ ]



**氏名** ヨハン・ハインリッヒ・ペスタロッチ

**あだ名** ペスタロッチ

**出身地** チューリッヒ (スイス)

**生年月日** 1734年10月8日

**【職歴 (学歴)】 どんな学校行って、どんな仕事したの?**  
 チューリッヒの高等教育機関「カトリック」に入学し、厳格な教育を受けた。1773年に木綿工業を導入し、市民教育施設として1779年に創設した。1784年に「エムメン」の施設を創設し、市民教育の場として発展させた。1794年に「エムメン」の施設を創設し、市民教育の場として発展させた。

**【業績 (教育分野)】 どんな功績残したの?**  
 1. 教育の中心を子どもから「社会」の側面へシフトさせた。  
 2. 学校を「社会」の縮小版として、社会生活の場として捉え直した。  
 3. 教育は生活そのものであるという考えを提唱した。

**【著書】 どんな本書いたの? 内容も教えて?**  
 『エムメンの学校』 1781年刊行。教育の目的は個人の自由と社会の進歩の両方にあると主張し、道徳教育の重要性を説いた。『人間性』 1922年刊行。『人間性』 1922年刊行。『人間性』 1922年刊行。

**【参考図書等】 どこから情報手に入れたの?**  
 『エムメンの学校』 1781年刊行。『人間性』 1922年刊行。

**【誰が先輩?後輩?】 年上順に並び替えてみよう!**

ソクラテス、コメニウス、ルソー、ペスタロッチ、ヘルバルト、デューイ

図1 作成したプロフィールの例

## (2) マイクロディベート

マイクロディベートとは、簡易的なディベートととらえて良い。しかし、ディベートのように肯定派と否定派にわかれて議論をするだけではなく、客観的に審判の立場となって優劣を判断したり、反対の意見の立場に立って意見を言ったりする。つまり、一人の学生が、同じテーマで三回（肯定・否定・審判）立場を変えてディベートするということである。本来のディベートならば、一時間以上かかるところだが、このマイクロディベートは一回りが10分程度で終わる。異なるテーマを様々な立場で何回も思考することができるので、視野を広くすることができ、多角的な見方・考え方を身に付けることができる。

本学の授業で行った中のテーマを一つ紹介する。

テーマ：「土曜日のスクールバスの本数を増やす」

**【賛成側の主張】**

- ・土曜日は普段と電車のダイヤも異なり、接続の面から考えてももう少し本数を増やしても良い。
- ・運動部の練習試合等もあるため、本学の生徒だけでなく他大学の生徒が利用することもある。そのため、スクールバスの利便性をあげることで、本学のPRになるのではないか等。

**【反対派の主張】**

- ・土曜日は、授業数も少ないし、学生も平日より少ない。少ない生徒のために、お金を使ってバスの本数を増やすことは有益ではない。自身がバスの時間に合わせる事が第一である。
- ・実際に本数が少なくて困っている人は、どのくらいいるのだろうか。困っている状況証拠がなければ、とくに増加する理由はない等。

ディベート終了後に学生たちは、「バスの維持費等はどのくらいだろうか」「大学でバスを管理せずに、民間のバスに学校経路を依頼するのはどうか。」「受益者負担だったら学生からも文句はでないのでは」等様々な意見が飛び交っていた。授業をきっかけに自身を振り返り、主体的に学んでいる姿勢が良く表れていたと感じている。またここでは、他者がいなくては成立しない授業形態のため、対話的でもあった。講義が終わってもなお、その内容について議論している姿を見ると深い学びへとつながっていったと捉えることもできる。



図2 マイクロディベートの様子

### (3) ビブリオバトル

ビブリオバトルとは書評合戦とも言われ、自分の好きな本を持ちより、本の紹介をするものである。現在では、小学生～大学生、一般の方にまで広まっている。ビブリオバトルは下記のように進められていく。

#### 【ビブリオバトルの流れ】

1. 発表参加者が読んで面白いと思った本を持って集まる。
2. 順番に一人5分間で本を紹介する。
3. それぞれの発表の後に参加者全員でその発表に関するディスカッションを2～3分行う。
4. 全ての発表が終了した後に「どの本が一番読みたくなったか？」を基準とした投票を参加者全員一票で行い、最多票を集めたものを『チャンプ本』とする。

今回の講義では、三人の学生でビブリオバトルを実施した。三人が紹介した本はジャンルもバラバラであり、内容も大きく異なっていた。高校の時に読んで、今また読み直したという本を紹介してくれた学生もいれば、英語検定の問題集を紹介した学生もいた。どの発表者も、相手が理解できるようにその本の特徴をしっかりと捉えていた。

ビブリオバトルのポイントは、ただ本の紹介をするだけではない。その後にディスカッションタイムというものが存在する。この時間は、発表を聞いた聴衆者が発表者に対してその本や作者について質問することができる。それに対し、発表者は答えなければならないので、その本を熟読することはもちろん、作者についても知っておかなければならない。また、同作者の別の本についての質問もあるため、発表者は、周辺の知識を幅広く学習しておかなければならないのだ。こういった状況が、半強制的に作り上げられてしまうが、逆にそれが良い学習につながっているととれる。この授業後にも、紹介した本の話題になり、「その本の作者は〇〇という本も書いているよね」「この本は最近ゲーム化さ



図3 ビブリオバトルの様子

れたこと知ってる？」等様々な意見が飛び交っていたのが印象的であった。半強制的な部分もあるが、主体的に本を選択し、他者と対話しながら深い学びへとつながっていたように感じている。

#### (4) 模擬授業と他者評価

模擬授業では、学生が取得する教員免許状の関係で、国語の授業と福祉の授業が実施された。各30分という時間の制約の中で、どのような教材で、どの教育方法を用いて、何を身に付けさせるのかがポイントであった。学生たちは真剣に取り組み、授業外の時間にもメールで質問をしてくる学生もいた。実際の授業では、黒板とチョークを使用し授業をする学生、プリントを配布して授業する学生、プレゼンテーションソフトを使用し、プロジェクタとパソコンを使用して授業をする学生と様々であった。手法も様々で、協調学習を取り入れた者もいれば、一斉授業で効果的に発問しながら授業を実施した者もいた。

また、今回の模擬授業は、ただ実施するだけではなく、授業者以外は生徒役兼評価者になり、その授業を評価した（評価項目は、図4を参照）。

事前に「評価は、一定の根拠も持つてするように」と一言伝えておいたせいか、授業者に対して適切な助言を与えていたと感じている。またその助言に対して、学生たちは真摯に受け止めている様子もみてとれた。授業後に「もっと授業経験を積まなければならない」という生徒もいたため、自身の授業力を見つめ直すいい機会だったのではないかと感じている。

実際中学校や高校の現場でも、生徒に授業を行わせることもある。それは授業者になることによって、緊張感を持ち教材研究を真剣に行うことによって、自身の勉強になるということを経験して欲しいからである。今回の授業を通して、学生自身にもそのことがわかってもらえたのではないかと感じている。一人では、気が付かないかもしれないが、他者と触れ合うことで、自分を振り返ることができるのである。

導入	興味・関心をひくようなことをしているか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
	本時のねらいを示しているか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
授業展開	生徒の実態を十分考慮した授業構成及び展開となっていたか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
	授業のしめくりはしっかりしていたか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
板書	レイアウトは工夫されていたか	<input checked="" type="radio"/> A	B	C	D
	板書時の立つ位置は適切であったか	<input checked="" type="radio"/> A	B	C	D
	文字の大きさは見やすかったか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
教材・教具の工夫	副教材等が用意され、効果的に使用されていたか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
発問・指示の適切さ	生徒の理解を助けるように、発問や指示を適切に行っていたか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
	わかりやすい発問をしているか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
対応・話し方	発問の回答への対応は適切であったか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
	話のスピードはどうだったか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
	声の高低・メリハリはあったか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
	うなづいたり、ほめたりしながら授業を進めているか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
	生徒が理解できるような話し方を工夫しているか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
時間	一部の生徒に偏ることなく発表を求め、授業を進めているか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
	生徒に発言・質問・活動の時間を十分に確保しているか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
態度・姿勢	計画的・効果的な時間配分をしているか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
	学ぶ姿勢や学習規律についてが指導しているか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D
	始業・終業時の挨拶はしっかりしていたか	A	<input checked="" type="radio"/> B	C	D

図4 評価項目

#### 4 学生の様子

「教員免許を取得して、教員になる」という学生たちなので、新学習指導要領が変わることは、皆意識している。また、大学での講義だけではなく、千葉県が主催している教員養成セミナーに参加したり、塾の講師をしたりと自己研鑽に励んでいる。本講座を受講中も、「この教育方法は、他のセミナーでもやったけど効果的だね」「初めて体験した教育方法だけど、とても楽しかったから今度使ってみよう」等様々な感想を持ち、自分の中で消化してくれていたように思う。

#### 5 終わりに

教育の現場の変化は、どんどん加速していく。そのスピードは、今までの比ではない。つい最近まで、教育現場は、ほとんど変化がない環境だと言われ、教員は世間知らずであり、一時は「でもしか先生」と揶揄された業界だった。しかし、今回の改革によって、そういった先生は淘汰されていく。新しい教育方法が導入され、今まで講義一辺倒だった授業が改善されていく。また黒板とチョークだけあれば授業できていたものが、ICTの導入により、パソコンやプロジェクタ、デジタル教科書やWi-Fi等を使用した授業がスタンダードになる。それは、第5世代移動通信システムが確立すれば、加速度的に進んでいくだろう。

では我々は今何をすれば良いのか。それは、「主体的・対話的で深い学び」を教員自らが実践することである。我々教員が、学生に指導するためには、まずは自分が体験しなくてはならない。例えば、高校生にセンター試験の問題の解説をする際、最初に教員が自分で問題を解き、その上で解説を行う。それと同じことだと考える。それをおろそかにしてしまうと、結局「学習指導要領に沿っている授業をしているふり」に見えてしまうだろう。私たちは今こそ、主体的に課題を見つけ、学校内外で対話的活動を行い、深い学びを体験するよう努める必要があるのだ。その際今回のこの実践報告が、教員の一助となれば幸いである。

#### 【参考文献】

注1 『平成28年8月26日 中央教育審議会教育課程部会 資料2-4』

#### 【要旨】

新学習指導要領に沿ったアクティブ・ラーニング型の授業方法を体験し、現場で実践できる授業力を身につけるための実践報告である。

#### 【キーワード】

学習指導要領 アクティブ・ラーニング 似顔絵付プロフィール マイクロディベート ビブリオバトル 模擬授業 他者評価